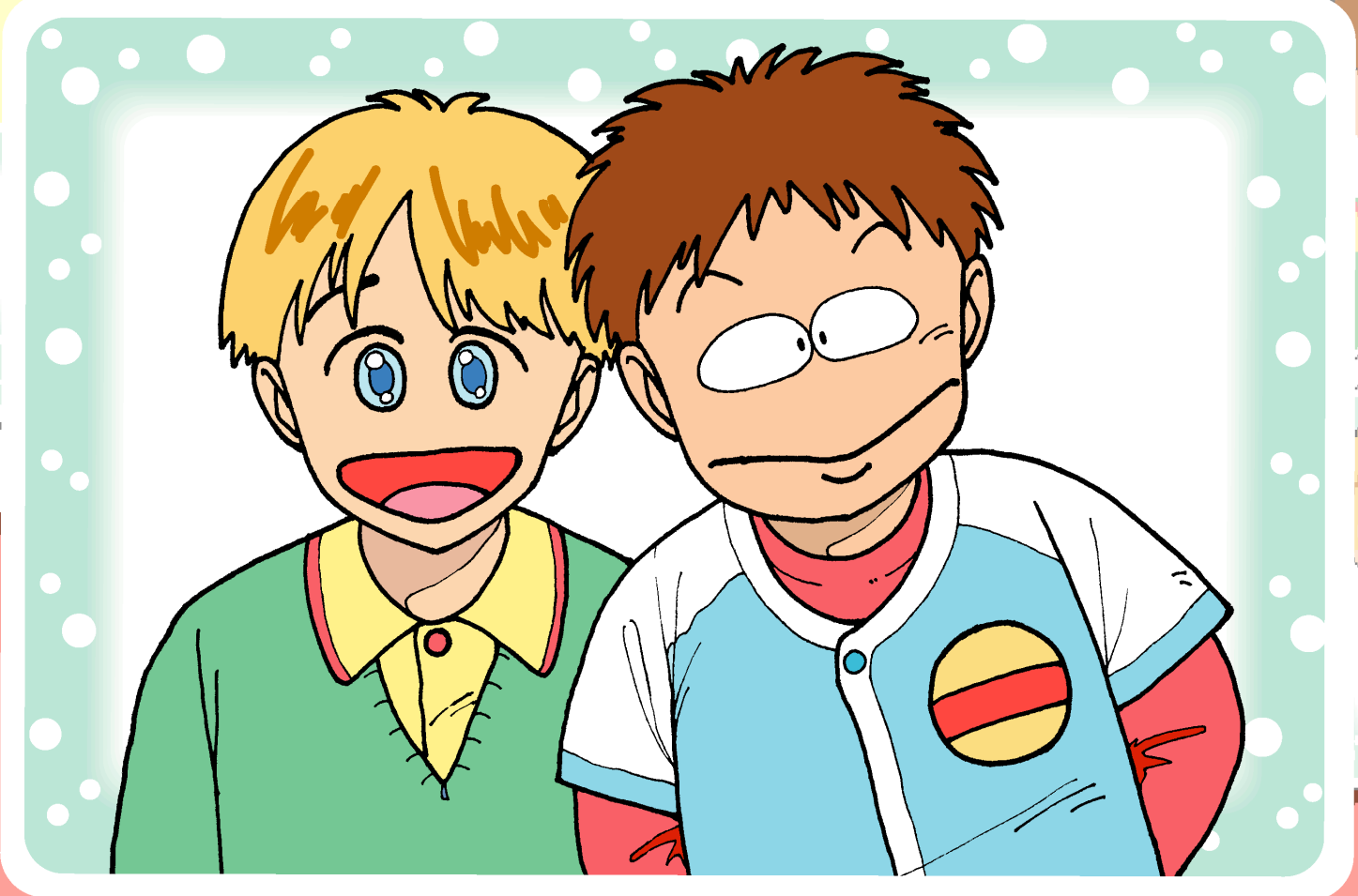
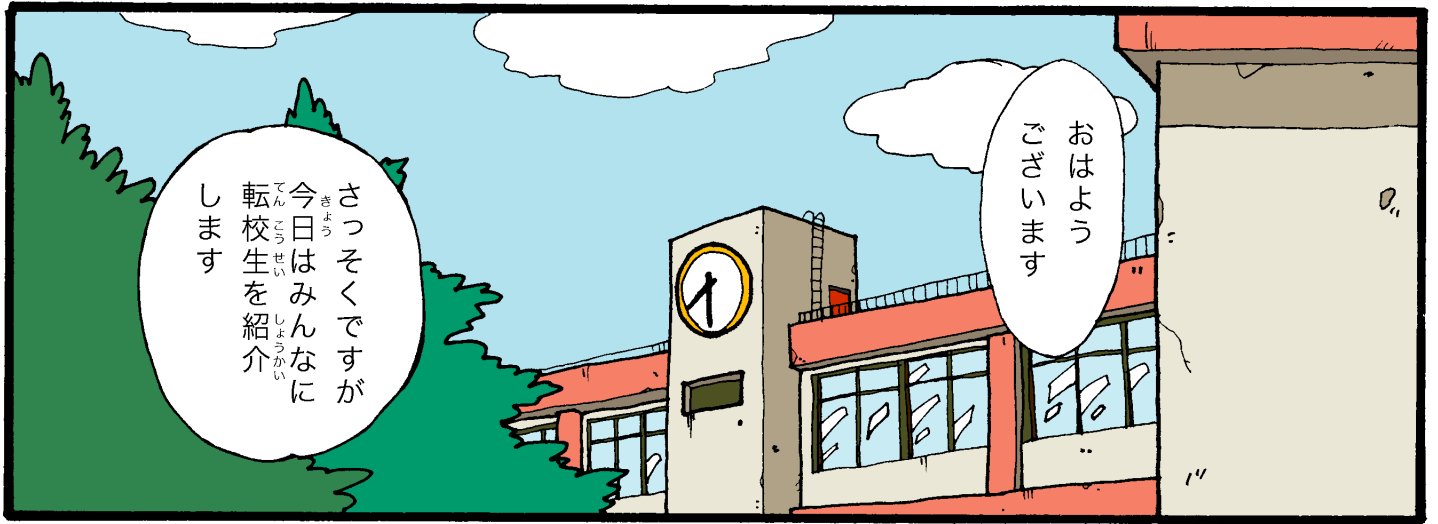


# みんながともだち



港・品川・目黒・大田区同和対策四区連絡会



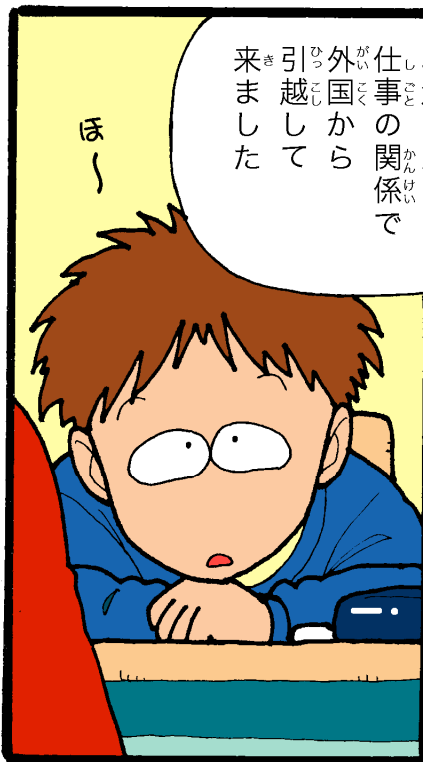
さつそくですが  
今日はみんなに  
転校生を紹介  
します

おはよう  
ございます



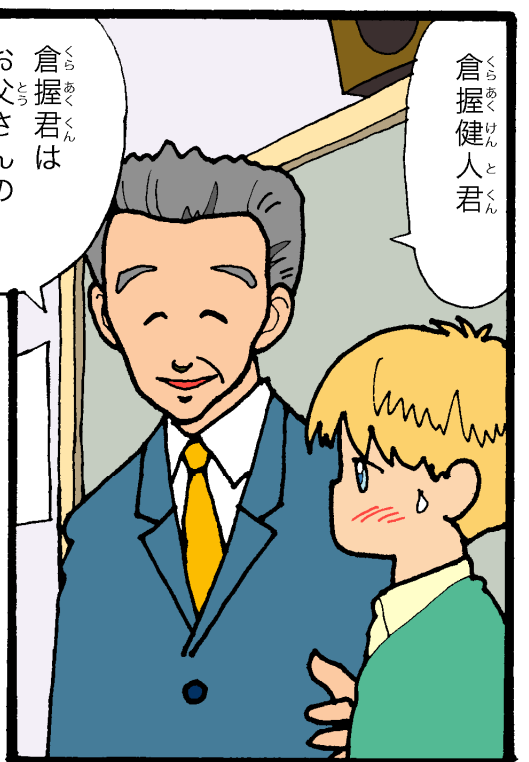
ハ……ハジメ  
マステ

ボクノナマエハ  
クラーケントダス  
コニタビワミナサマ

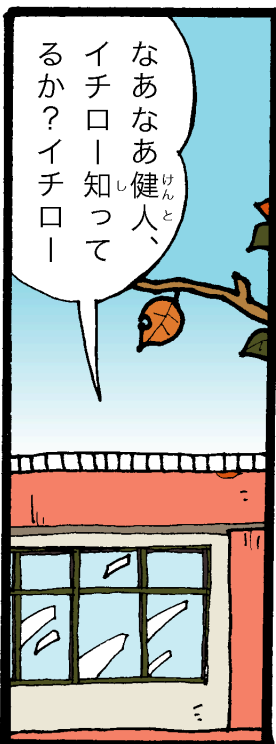


ほー

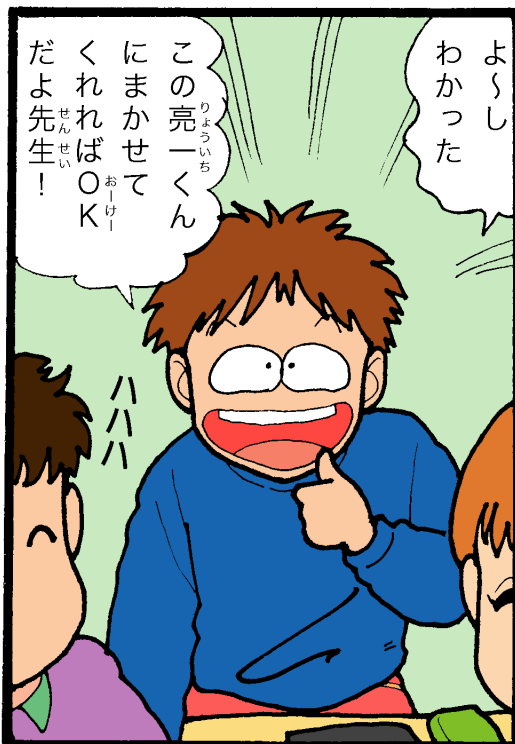
倉握君は  
お父さんの  
仕事の関係で  
外国から  
引越して  
来ました



倉握健人君



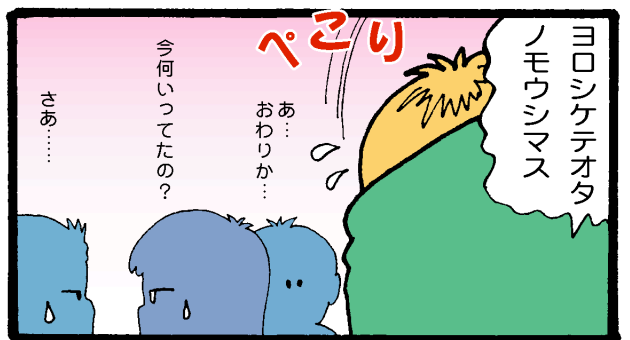
なあなあ健人、  
イチロー知って  
るか？イチロー



よーし  
わかった

この亮ーくん  
にまかせて  
くれればOK  
だよ先生！

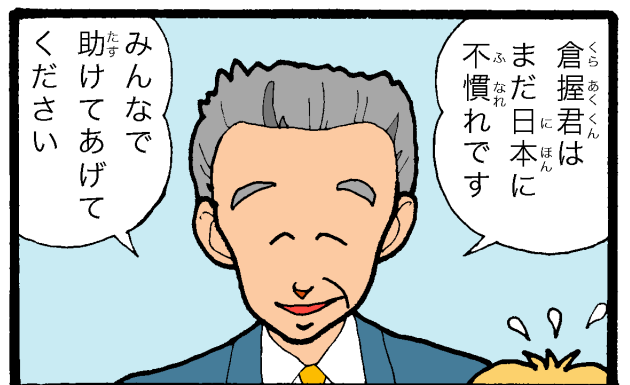
ハハハ



ぺろり

今何いってたの？  
あ……  
おわりか……

さあ……

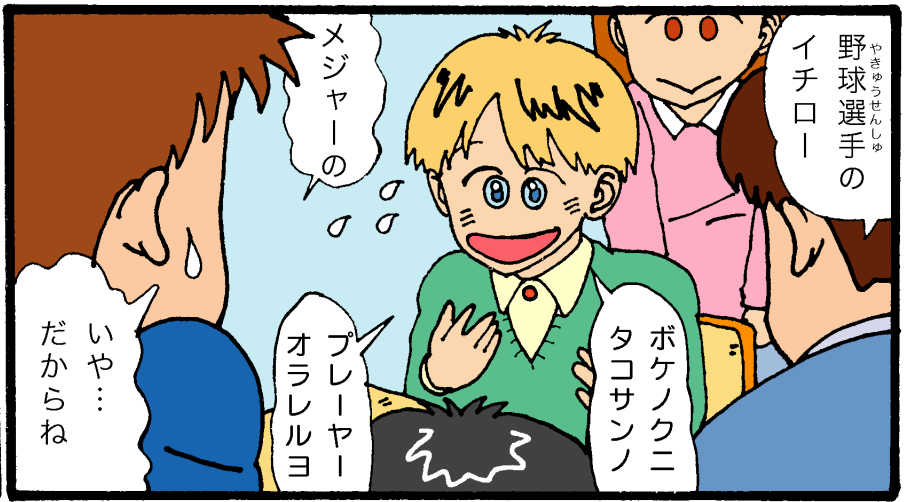


倉握君は  
まだ日本に  
不慣れです

みんなで  
助けてあげて  
ください



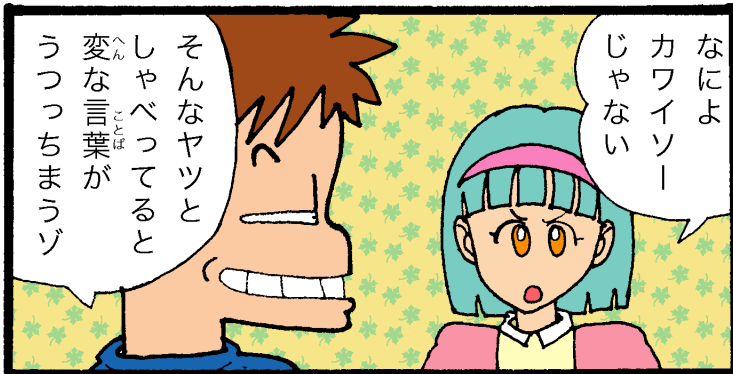
だあくもうっ!  
わけわかん  
ねーんだよ!!



野球選手の  
イチロー

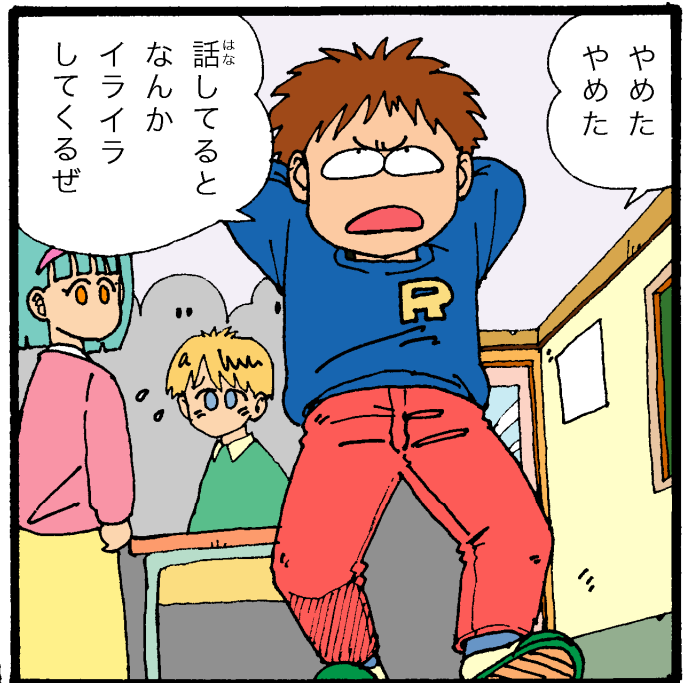
ポケノクニ  
タコサンノ  
プレーヤー  
オラレルヨ

いや...  
だからね



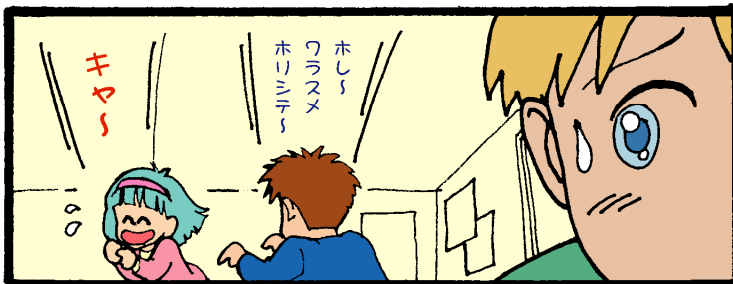
そんなヤツと  
しゃべってると  
変な言葉が  
うつちまうゾ

なによ  
カワイソー  
じゃない

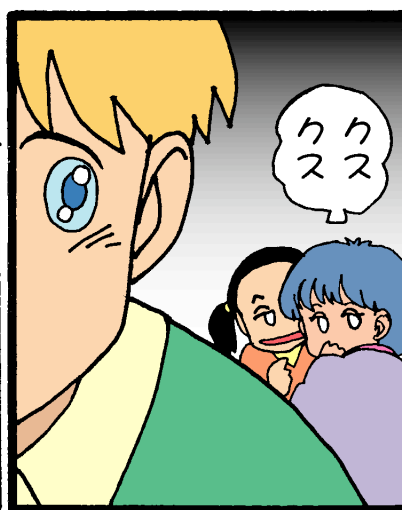
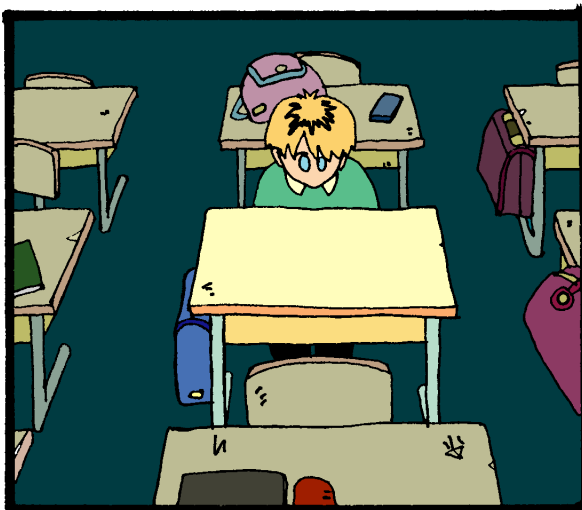


やめた  
やめた

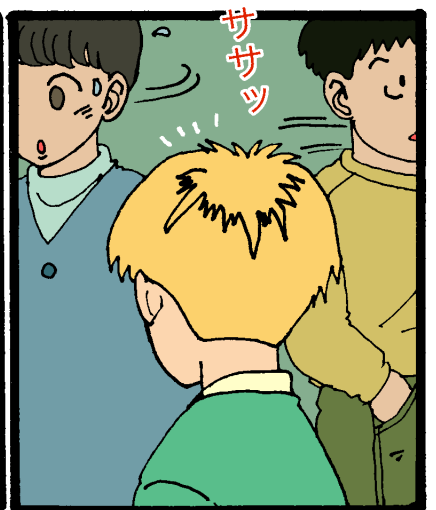
話してると  
なんか  
イライラ  
してくるぜ



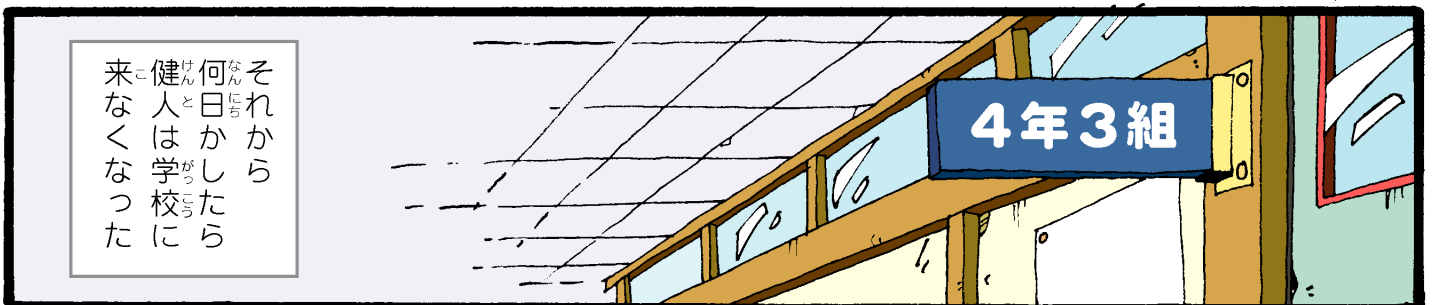
ホシ、  
フラヌメ、  
ホリミテ、  
キヤ



くく  
スス

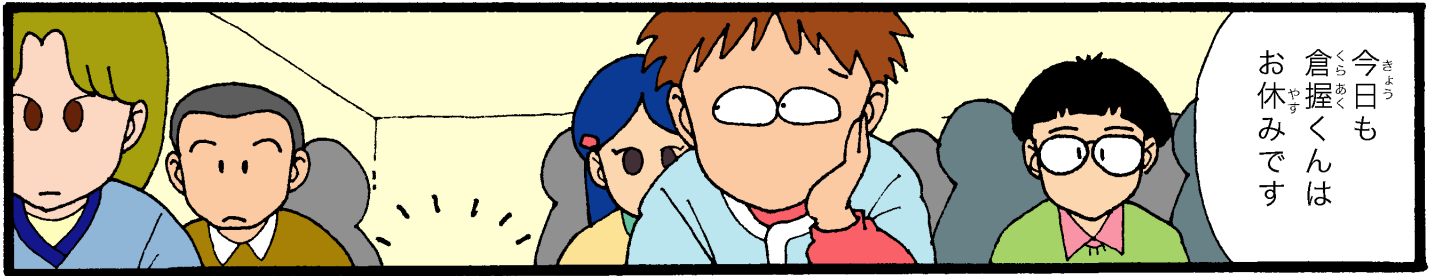


ササツ



それから  
何日かしたら  
健人は学校に  
来なくなつた

4年3組

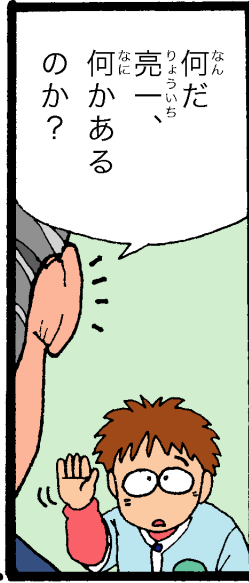


今日も  
倉握くんは  
お休みです

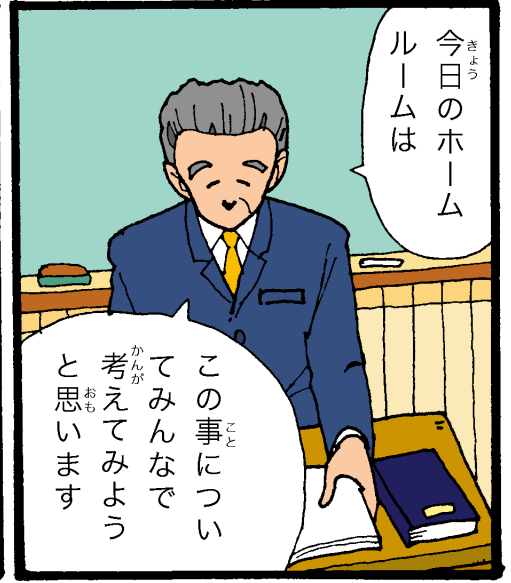


オレ健人の事で  
ばあちゃんに  
怒られたんだ

差別とか  
いじめとか  
がすごく人を傷つ  
けるって  
ばあちゃんも昔、  
ブラク差別を  
したって...



何だ、  
亮一、  
何かある  
のか？

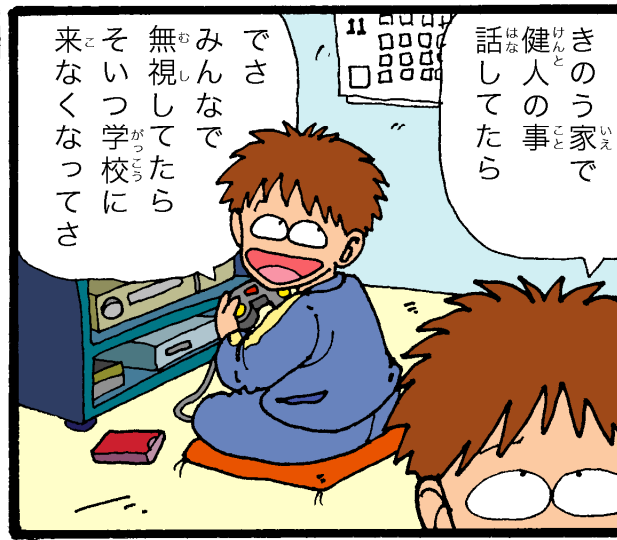


今日のホーム  
ルームは

この事につい  
てみんな  
考えてみよう  
と思ひます



おまえなんて  
ひどい事  
をするの

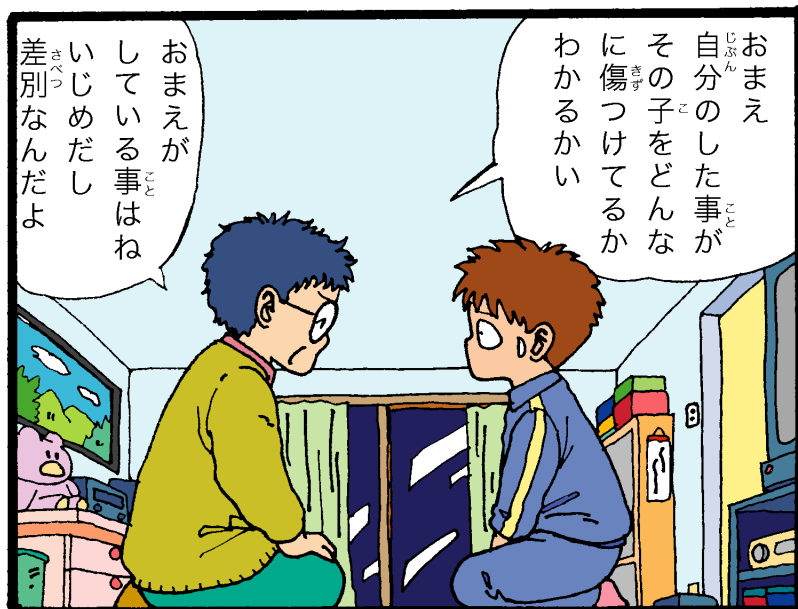


きょう家で  
健人の事  
話したら

でさ  
みん  
無視してたら  
そいつ学校に  
来なくなつてさ



おばあさんが  
...  
詳しく話して  
くれるかな



おまえが  
している事はね  
いじめだし  
差別なんだよ

おまえ  
自分のした事が  
その子をどんな  
に傷つけてるか  
わかるかい



亮一!

あんなんと  
しゃべつてると



だってあいつの  
しゃべる言葉  
スゲー  
変なんだぜ



ところが  
ある日突然  
本家の伯父さんが  
家に怒鳴り込んで  
来たんだよ

この結婚は  
絶対許さない  
もう二度と会う事も  
させらなつて：  
ばあちゃんの  
お父さんにね



ばあちゃんには  
昔、職場で知り  
合った恋人がいた  
んだよ  
Sさんといつてね

いつしか結婚の約束もして  
周りの人達もその事を  
喜んでくれてね、日取りも  
決まっていたんだよ  
待たただけだったんだよ



ばあちゃんには  
反対される  
理由がわから  
なかった

ばあちゃんの父さんも  
何かすごく話しずら  
そうだったけど  
何も知らずに納得  
なんて、できる  
わけもないさ



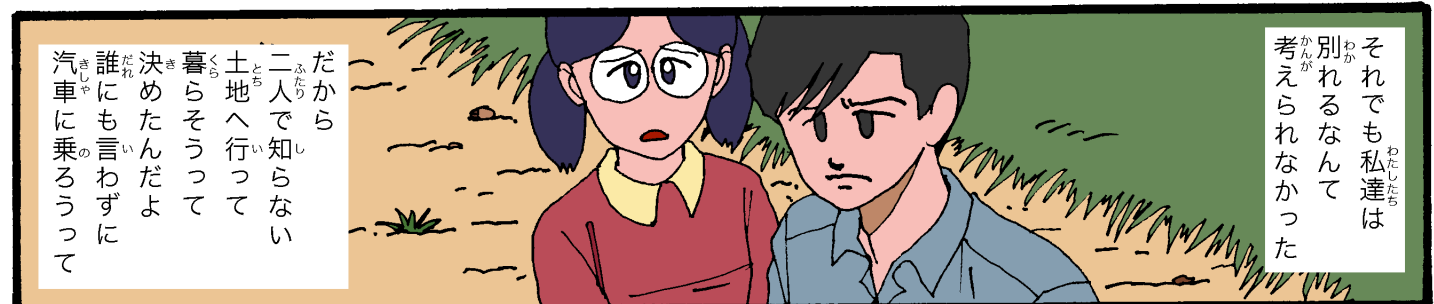
何日か経って  
やっと父さんが  
話してくれたよ

Sさんは  
部落の出だから  
この結婚は  
本家の許しを  
得られない

もしお前達が  
駆け落ちでもして  
結婚しようものなら  
本家はこの家と縁を切り  
土地も財産も全て  
取り上げると言ってるって

ひどい話したと  
思うだろ  
ただ  
父さんも母さんも  
苦しんでる事は  
わかったんだよ

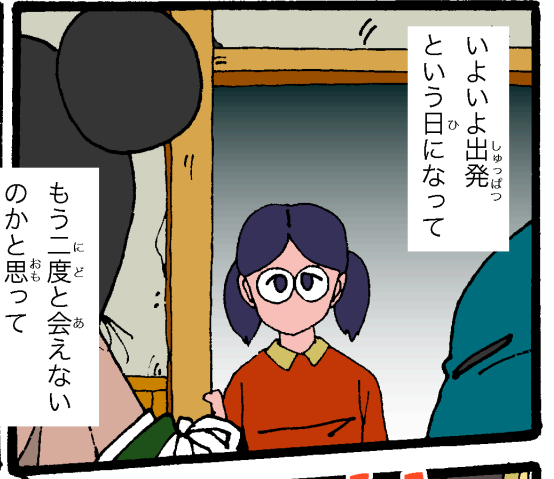
だけどね  
あの時代じゃ  
本家にさからつて  
暮らして行く事  
なんてできな  
かったんだよ



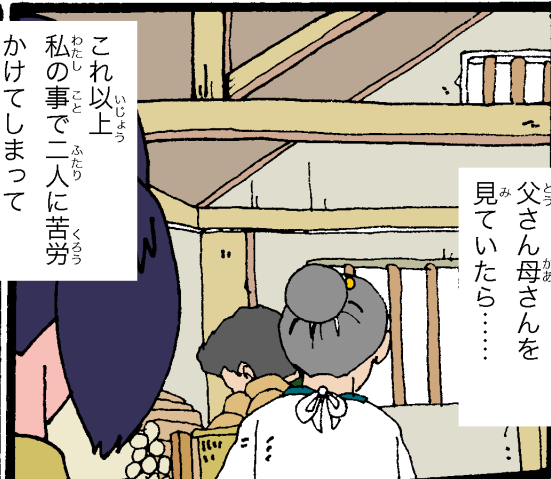
それでも私達は  
別れるなんて  
考えられなかった

だから  
二人で知らない  
土地へ行って  
暮らそうって  
決めたんだよ  
誰にも言わずに  
汽車に乗ろうって

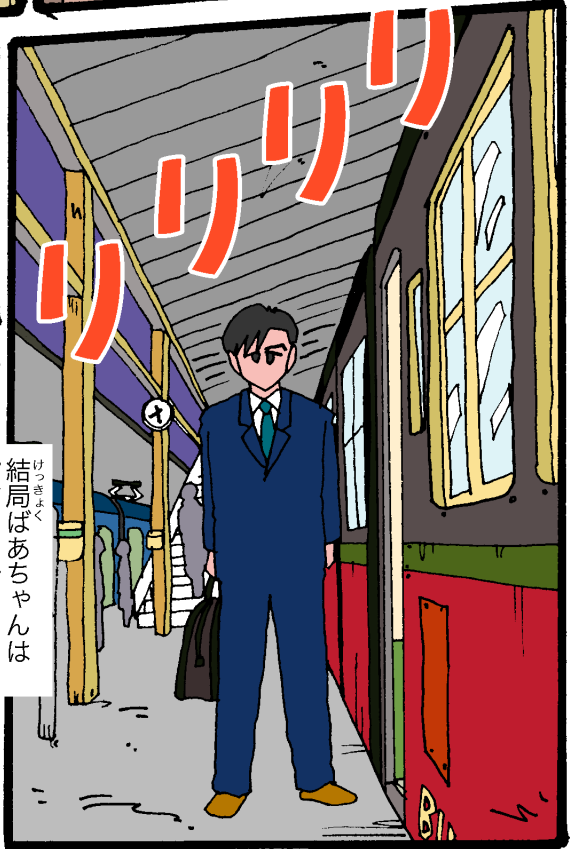
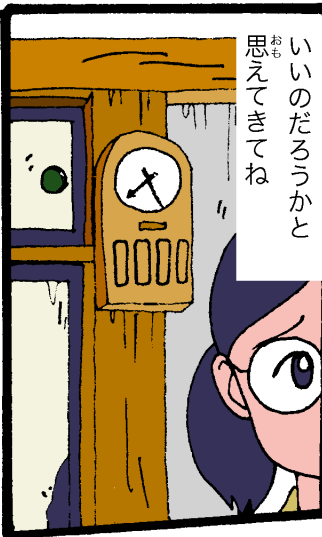
いよいよ出発  
という日になって



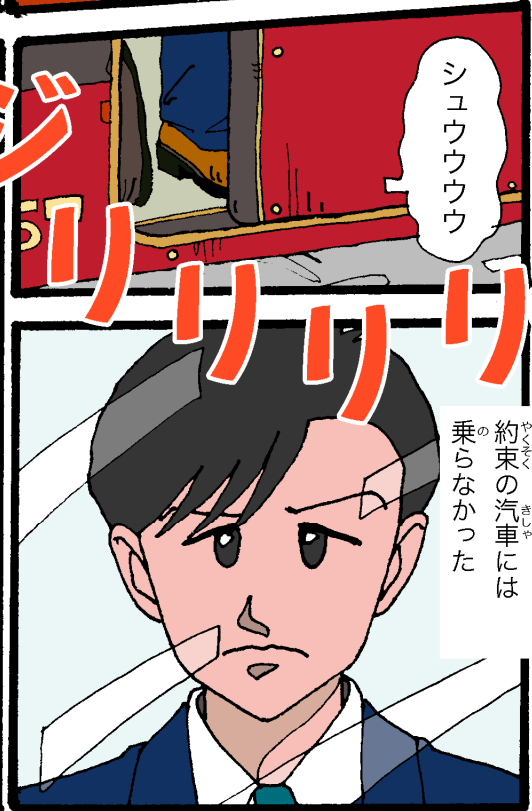
もう二度と会えない  
のかと思つて  
父さん母さんを  
見ていたら……



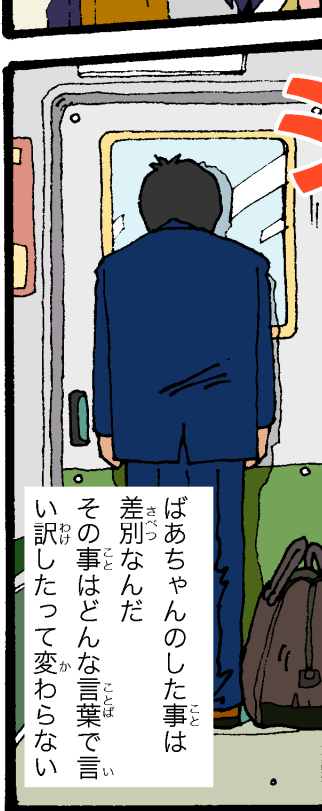
これ以上  
私の事で二人に苦勞  
かけてしまつて  
いいのだからかと  
思えてきてね



結局はあちゃんは  
約束の汽車には  
乗らなかつた



シューウウウ  
シューウウウ



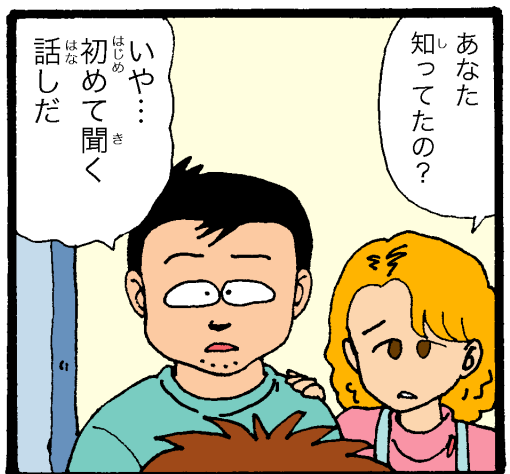
ばあちゃんのした事は  
差別なんだ  
その事は何んな言葉で言  
い訳したって変わらない



自分の事を誰よりも  
信じてくれていた人を  
裏切つて、傷つけて  
我が身の幸せだけを  
考えたんだ  
今でもそんな自分が  
くやしいし、  
恥ずかしいよ

亮一、人生の中では  
後になってどんなに  
後悔しても取り戻す事  
出来なくなつてしま  
うものがあるんだよ

あなた  
知つてたの？

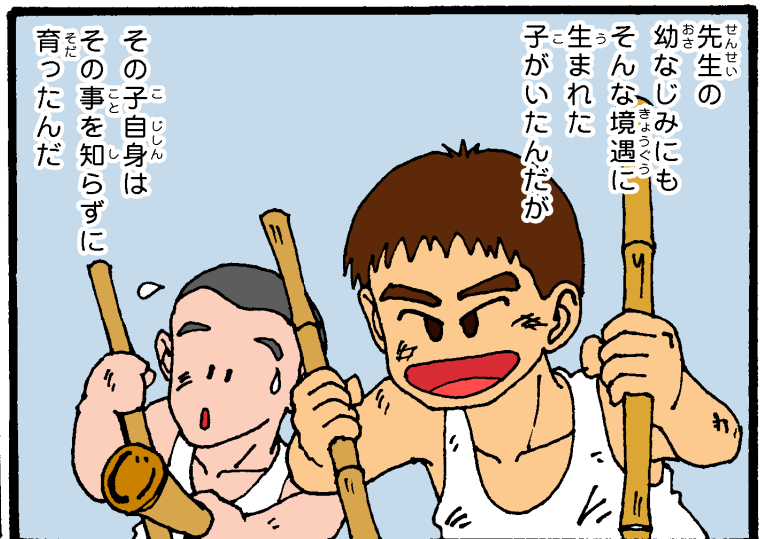
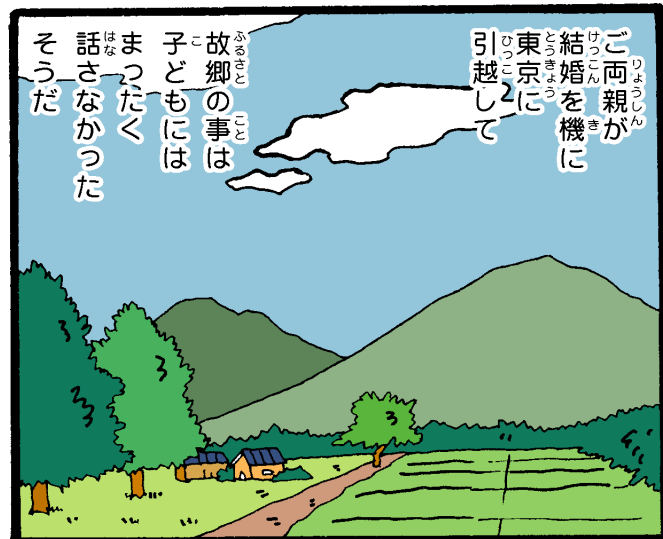
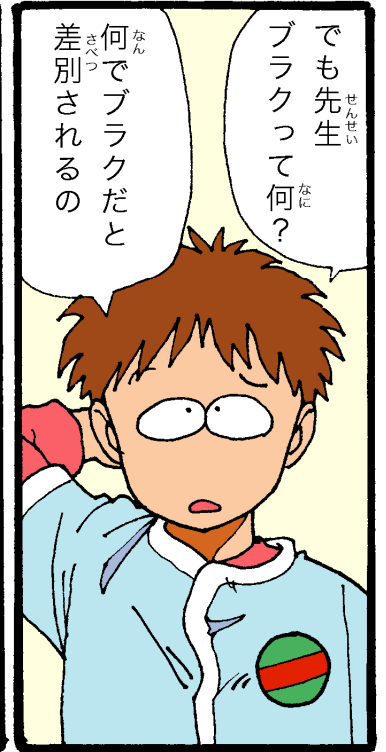
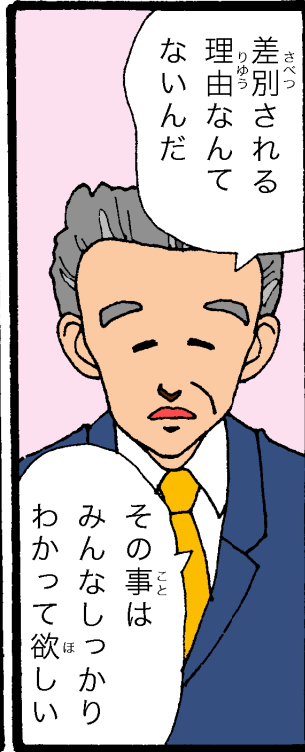
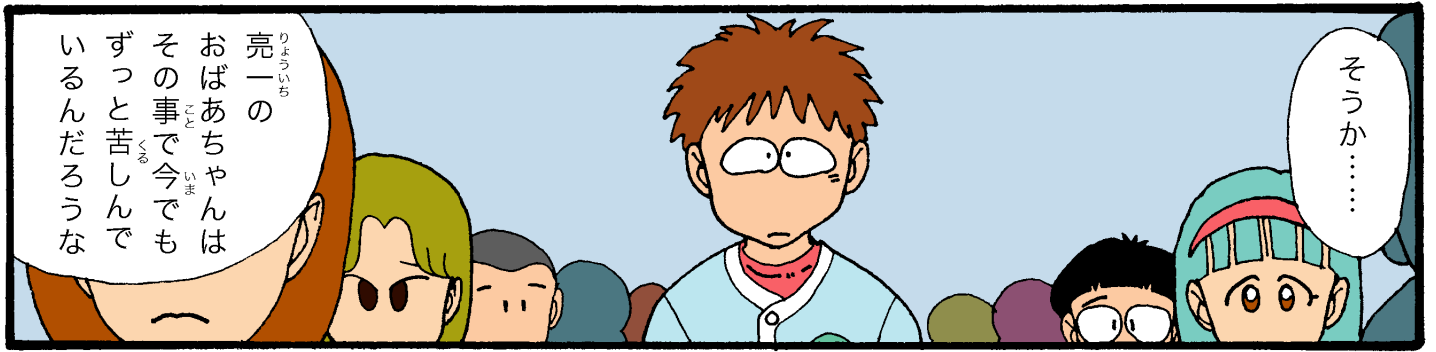


いや……  
初めて聞く  
話だ



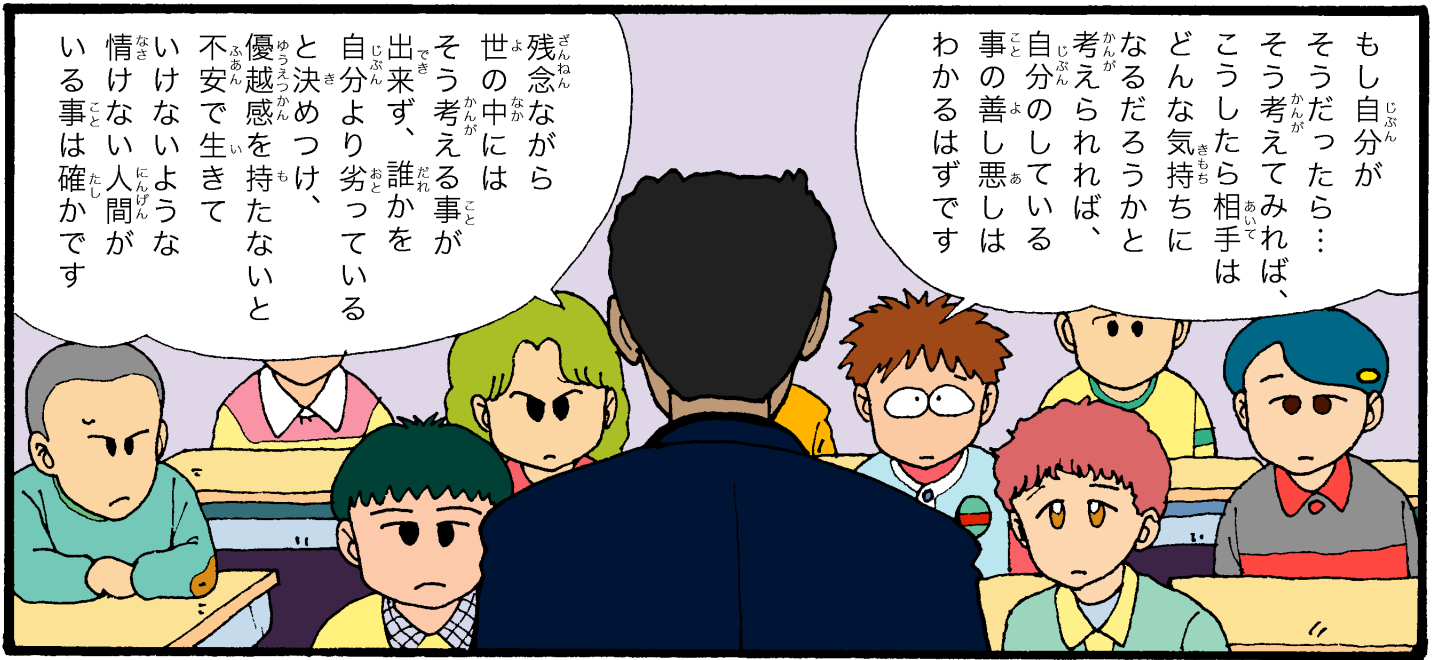
きつと  
おやじも  
知らなかつた  
事だらうな

母さん  
誰にも言わず  
自分一人で  
苦しんでた  
だらうな……



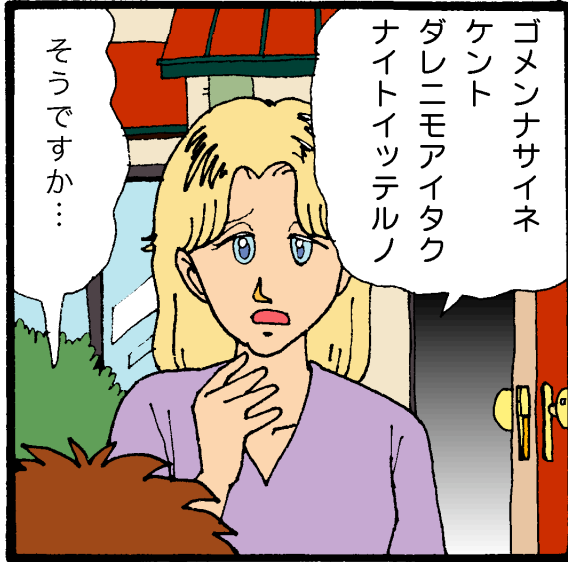
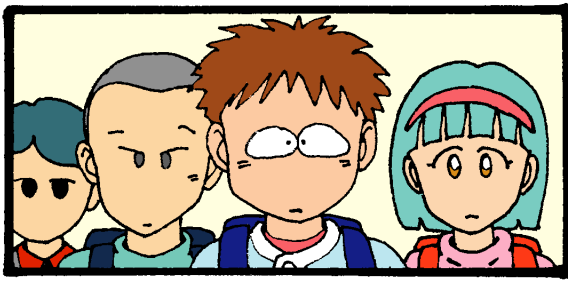






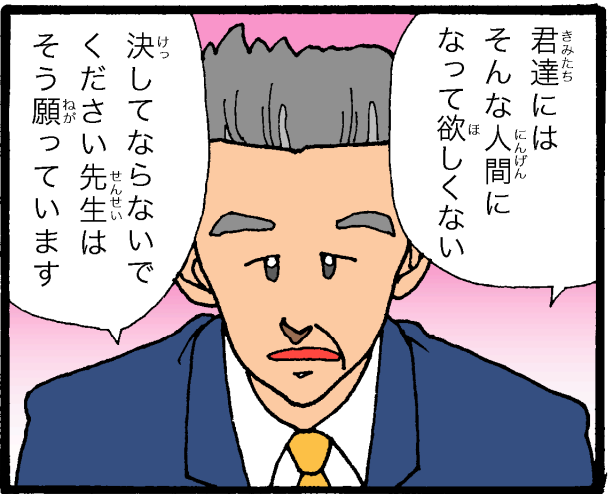
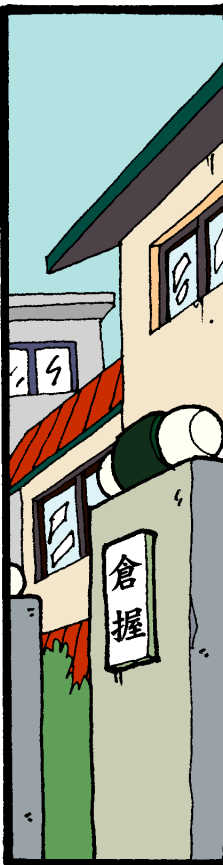
もし自分が  
そうだったら：  
そう考えてみれば、  
こうしたら相手は  
どんな気持ちに  
なるだろうかと  
考えられれば、  
自分のしている  
事の善し悪しは  
わかるはずでず

残念ながら  
世の中には  
そう考える事が  
出来ず、誰かを  
自分より劣っている  
と決めつけ、  
優越感を持たないと  
不安で生きて  
いけないような  
情けない人間が  
いる事は確かです

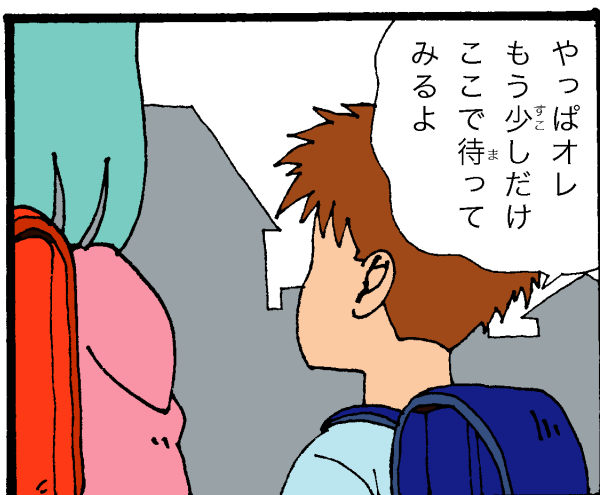
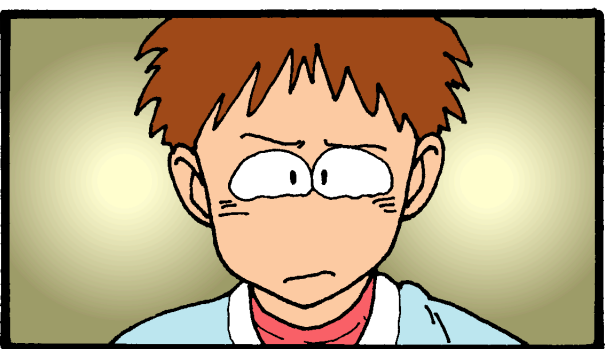


ゴメンナサイネ  
ケント  
ダレニモアイタク  
ナイトイッテルノ

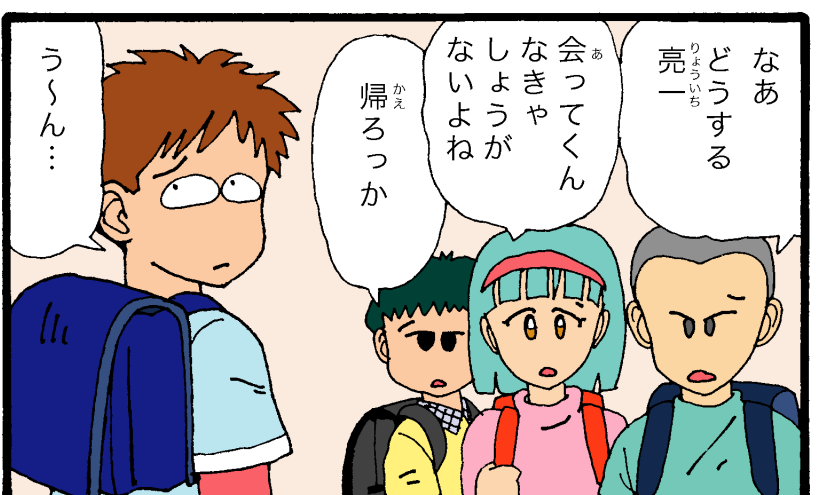
そうですか…



君達には  
そんな人間に  
なつて欲しくない  
決してならないで  
ください先生は  
そう願っています



やっぱオレ  
もう少しだけ  
ここで待って  
みるよ



なあ  
どうする  
亮一  
会つてくん  
なきや  
しょうが  
ないよね  
帰ろっか

うん…

